



第32軍機務整理部



四層
電子複写不可



防衛研究所図書館

Historical Data
Regarding
the 44th Independent Mixed Brigade
in
the Okinawa Operations

沖繩作戰ニ於ケル獨立混成第四十四旅團史實資料

昭和二十二年三月二十五日

第三十二軍残務整理部

昭和二十四年五月二十日

G-2 戦史課 複 寫

獨立混成第四十四旅團戦斗經過ノ概要

昭和十九年五月 至昭和二十年三月

昭和十九年五月、南洋方面ノ情況ニ鑑ミ七月初旬第九師團次デ第二十四師團ノ沖繩本島増強ニヨリ嘉手納地區ニ移動シ更ニ八月初旬第六十二師團ノ到着ト共ニ名護附近ニ移動シ國頭支隊トナル敵ノ「レイテ」上陸ヨリ比島方面ノ情勢緊迫化ニ伴ヒ本島ヨリ第九師團ヲ南方ニ轉用セラルルニ決シ之ニ關聯シテ旅團主力ハ十二月一日中頭地區ニ轉ジ中頭守備隊トナル

昭和二十年二月一日敵ノ本島ニ對スル策動激化ト共ニ軍作戦方針決定セラレ四度島尻ニ轉シ知念半島ヲ確保スルト共ニ北正面ヨリスル敵ノ攻撃ニ對シテヘ軍ノ準備トシテ隨時出陣シ得ル如ク待機セシメラル旅團ハ澁川正面ヨリスル敵ノ主上陸ニ對シテ強固ナル陣地ヲ構築スルト共ニ中城灣及知念半島方面ヨリスル一部ノ敵ノ上陸ニ對シテハ之ヲ水際ニ擊滅スル如ク準備ス

戦斗開始前ニ於ケル旅團ノ編成左ノ如シ

獨立混成第四十四旅團長 少將 鈴木 繁 二

旅下部隊 旅團司令部

獨立混成第十五聯隊長 大佐 美田 千賀藏

第二步兵旅第三大隊長 大尉 尾崎 源一

旅團砲兵隊長 大尉 原 秀雄

旅團工兵隊長 大尉 村本 福次

野戰重砲兵第七聯隊長 大佐 樋口 良彦

特設工兵第二十三聯隊長 少佐 大島

獨立連射砲第七大隊長 少佐 中島 好生

獨立第二大隊長

獨立第三大隊長

獨立第二十九大隊長大尉 中 本

獨立第二十六大隊三號無線一分隊

二、北正面何進迄ノ戦斗經過ノ概要

自三月二十三日
至四月二十五日

敵機動部隊ハ昭和二十年三月二十三日朝來大舉空襲シ次デ二十四日午
前九時頃依リ深川及知念半島ニ對シ最初ノ艦砲射撃ヲ實施セリ其ノ主
射向ハ深川志堅原カナヤ原知念岬附近ナルモ射撃速度比較的緩慢ナリ
三月二十五日ヨリ連日爆撃及艦砲射撃ヲ受ケ二十七日二十八日附日ニ
亙リ〇七、〇〇頃ヨリ深川正面ニ對シ露骨ナル上陸企圖ヲ示セルモ旅
團ハ滿ヲ持シテ放タズ警戒態ニ待機ス 敵ハ三月二十五日慶良間列島
ニ上陸シ次デ三月三十一日前島及ビ神山島ニ上陸セリ

四月一日遂ニ敵ハ北谷方面ヨリ中飛行場正面ニ對シ上陸ヲ開始シ其ノ
兵力三乃至四ヶ師ナルモノノ如シ

旅團ハ依然知念半島ヲ確保スルト共ニ特ニ敵ノ侵入正面ニ對スル上
ニ對シテハ軍砲兵ノ絶大ナル支援射撃及ビ第二十四師團トノ協同射撃
協力ノ下ニ之ヲ上陸地點ニ於テ碎碎スベク滿々タル自信ヲ有シアリ

四月四日敵ハ北正面東西兩海岸道ヨリ遂次南下シ我ガ第六十二師團主
陣地帯ト接觸スルニ至ル 軍ハ四月七日ヲ期シ攻勢ニ轉ズヘク内示セ
テ旅團ハ轉進計畫ノ内進幸地附近ノ司令部附近ノ偵察等夫々準備
スル所アリタルモ深川正面ニ對スル敵ノ上陸企圖益々露骨ニシテ猛烈
ナル艦砲射撃ノ投擲下早朝上陸用舟艇ニ依リ煙幕ヲ構成シテ之ヲ突武島
附近迄近接スル等敵ノ上陸ノ兆化セリ

獨立歩兵第二七三大隊ヲ配屬セラレ目取間附近ニ位置セシム旅團ハ東
海岸道ヨリ與那原方面ニ南下スル敵ニ對シテハ第二歩兵隊第三歩兵隊
一以下尾崎大隊ト稱スルヲ以テ爾乞陣地ニ據リ之ヲ全兵力ハ獨混十五

増隊ノ二箇大隊獨立大隊三ヶ大隊獨立歩兵一箇大隊敵國兵隊我國工
兵等ヲ以テ軍砲兵及第二十四師團ト協同ナル協力ノ下ニ三月二十五日

獨混ノ二箇大隊獨立大隊三ヶ大隊獨立歩兵一箇大隊旅團砲兵旅團工
兵隊ヲ以テ軍砲兵及第二十四師團ト密接ナル協力ノ下ニ強力且ツ彈
力性アル夜襲ニ依リ敵ヲ上陸地點ニ於テ殲滅スル如ク計畫セリ

四月六日〇二、三〇約二一三〇〇ノ敵ハ津堅島ニ上陸セリ津堅守備隊
（獨混上陸隊ノ一中隊獨混十五師團ノ歩兵一小隊）ハ拂退之ヲ強退セ
ルニ成功シ

四月七日軍攻勢命令ハ中止セラレ北正面ノ狀況ニ鑑ミ獨立歩兵第二七
三大隊ハ原所屬ニ復歸セシメラル

四月十日〇七、三〇津堅島ニ約五一一六〇〇ノ敵上陸セリ

四月十二日陸軍工兵第二十三聯隊ヨリ會長ノ指揮スル二組ノ挺身斬込
隊ヲ海上ヨリ津壩附近ノ敵重砲退避砲陣地ヲ求メテ奇襲セシメ成功ス
津堅島ニ對スル奇襲ハ舟艇沈没セラレ不成功ニ終レリ

津堅島ヨリノ通信杜絶ス全員斬込ヲ敢行セルニヨル

四月十三日津堅島ノ敵ヲ強退ス津堅砲台（野砲一十二連加三）ハ既ニ
自爆セシメタルヲ以テ旅團ハ負傷者ヲ收容スルト共ニ殘存兵力ヲ勝連
半島ニ上陸セシメ敵ノ後方混亂ニ任ゼシム

四月十八日敵ハ知名岬砲台附近ノ斷崖ヲ佔領及至心ニ依リ斷崖シ虎視
眈々タリ

四月十九日敵ハ朝來砲攻ニ轉ジタルモ我反撃ニヨリ四月二十三日噴
煙ス

四月二十四日第二十四師團主力ハ北正面ニ向ヒ機動ヲ開始シ旅團ハ在
小隊海軍部隊ト協力シ島尻ヲ確保軍主力ヲシテ後顧ノ憂無カラシムル
コトトナル

四月二十五日獨混第十五聯隊第一大隊（野崎大隊ト稱ス）獨立第三大
隊（野崎十一師團ノ指揮ニ入り夫々天久及國場ニ向ヒ前進ス

三、北正面戦斗加入ヨリ五月四日攻勢迄ノ概要 自四月二十六日
至五月五日

四月二十六日旅團ハ尾崎大隊獨立連射砲第七大隊屬）ヲ現在地（兩乞
陣地西原嶺陣地）ニ於テ第二十四師團長ノ指揮ニ入ラシムルト共ニ

第七聯隊船工兵第二十三聯隊獨立第二十九大隊ヨリ成ル知念
任ヲ引繼キ首里(含メズ)以西地區ノ守備ヲ擔任スルコト
トスルハ該司令部ノ職名ニ前達ス

右地區ヲ右地區トシ聯隊本部ヲ松川ニ移シ指揮ニ入
レル平賀部隊ヲ左地區トシ本部置屋町一船工兵第二十六聯隊本部
長堂一ヲ兩地區トシ旅團砲兵隊ハ國場旅團工兵隊ハ職名ニ向ヒ夫々
備前ヲ開始セシム

獨立砲隊第七大隊(一中隊缺)ハ右地區隊長ノ指揮ニ入ラシム
先ニ第六十二師團長ノ指揮ニ入レル野崎大隊ハ獨立第十五聯隊長ノ職
下ニ復シ獨立第三大隊ハ國場ニ於テ再ビ歸下ニ入り旅團直轄トナル
四月二十七日迄ニ概ネ右配數ヲ完了ス

四月二十九日軍ハ五月四日ヲ期シ總攻撃ニ轉ズルコトト決ス

五月一日旅團ハ首里以西與那原街道以南凹地ニ集結スルコトトナリ旅
團司令部ハ軍及隣接兵團ト密接ナル連絡ヲ保持スル爲首里軍司令部洞
窟内ニ前進ス茲ニ於テ軍司令部第二十四師團司令部及旅團司令部ハ同
一箇所ニ開設セラレタリ 船工兵第二十六聯隊ハ指揮下ヲ歸シシテ
主力ヲ以テ中頭方面ニ海上挺進セシメラル 平賀部隊及獨立第三大隊
ハ第六十二師團長ノ指揮下ニ入ル尾崎大隊ハ再ビ歸下ニ復シシテ
西兩凹地ニ集結ヲ命ズ

旅團主力ハ大名兩凹地ニ旅團砲兵ノ主力ハ首里城趾ニ機動ヲ開始シ
五月三日拂曉迄ニ配數ヲ完了ス

五月三日總攻撃ノ命令下達セラレ千數一週ノ勇士ノ奮ト意氣大ニ昂ル
旅團ハ四月下旬シ獨混第十五聯隊ヲ以テ翁長幸雄ノ線ヨリ大山ニ向
ヒ突進スベク決シ旅團司令部ヲ幸地西南方二杆四又崎丘陵地帯ニ推進
スルコトトナリ旅團連備ノ主力及ビ指揮班ノ一師先鋒ス

五月四日未明獨混第十五聯隊ハ攻撃前進ス
旅團司令部置屋町ハ第一線部隊ニヨリ占メラレ戦況上其ノ前進不適當
ニシテ依然首里ニ在ルコトニ決ス 此ノ日我が空軍ノ地上戦斗ニ直接
協力スルヲ企圖待望シアリシモ遂ニ其ノ英姿ヲ見ズ

ニシテ依然首里ニ在ルコトニ決ス。此ノ日我が空軍ノ地上戦斗ニ直接
協力スルヲ全員待望シアリシモ遂ニ其ノ英姿ヲ見ズ

一四一

五月五日軍へ攻勢ヲ進行セシカ急敵ニ其ノ戦力ヲ損耗シヒイテハ敵ノ
本土決戦ヲ促進スルヲ以テ再ビ持久スルニ決シタ刺戟ヲ中止シ敵勢
ヲ整備セシメタル

自五月五日
至五月卅一日

五月五日軍へ攻勢ヲ進行セシカ急敵ニ其ノ戦力ヲ損耗シヒイテハ敵ノ
本土決戦ヲ促進スルヲ以テ再ビ持久スルニ決シタ刺戟ヲ中止シ敵勢
ヲ整備セシメタル
旅團へ軍へ左第一級トナリ首里(含マズ)以西地区ノ防備ニ任ズ。平
賀部隊(那覇)獨立第一大隊(天久)へ指揮下ニ入り尾崎大隊へ第六
十二師團長ノ指揮下ニ入り津城ニ向ヒ前進ス。旅團へ獨混第十五聯隊
(本部松川)ヲ以テ右地區隊トナシ第六十二師團ト連繫シ未吉、眞嘉
比安里ヲ堅固ニ陣地占領セシメ平賀部隊(本部壺屋町)ヲ以テ左地區
隊トナシ安謝、天久ヨリスル敵ノ突破ニ備ヘ那覇沿岸ヨリスル敵ノ上
陸ヲ封殺セシム。獨立遠射砲第七大隊ハ右地區隊長ノ指揮ニ入レ旅團
砲兵ノ主力ハ中榮同旅團工兵ハ一部ヲ以テ右地區隊ニ協力セシメ其ノ
主力ヲ職名ニ配置ス。旅團ハ患者ノ收容所ヲ職名ニ開設シ又防備自
衛ヲ以テ編成セル機重隊ノ全カヲ以テ物資集積所タル島尻郡糸賀ヨリ
彈藥積積ノ輸送ニ任ゼシム五月七日朝迄ニ敵不新編備ヲ完了ス
五月八日内閣ヲ奪取セラレ既ハ安謝川ノ渡河準備ヲ開始ス
風部隊(航空保安通信整備中隊)獨立高射砲第七十八大隊ハ松川ニ於
テ旅團ノ指揮下ニ入ル
五月十二日旅團當面ノ敵ハ海兵第六師團ニシテ安謝川ヲ突破シ天久台
ヲ獨立第二大隊ハ甚大ナル損害ヲ受ク
五月十三日終日天久西方台一高嶺町一崇元寺町一安里北方五二高地一
等處北西無名高地附近ヲ確保シ敵ノ接近ヲ阻止ス。海軍丸山大隊及ビ
田口大隊ハ旅團ノ指揮下ニ入り丸山大隊ハ築田川ニ於テ旅團直轄トナ
リ田口大隊ハ右地區隊長ノ指揮下ニ入りヤム旅團工兵ノ主力ヲ松川南
方台地ニ配置ス

一五一

五月二十五日以後敵ノ高壓ハ依然天久ヨリ那覇市北側ニ指向セラレ獨立
第一大隊ハ二十日頃被テ海軍伊勢大隊及遊撃隊小隊ヲ指指ニ入ラシ
メテ左右兩側ノ接撃部ニ投入ス連日挺身斬込反撃夜襲ヲ強行シ
敵ニ多大ノ損害ヲ與ヘテ我亦第一線兵力ノ損耗累増ス特ニ安里北
方五二高地ノ奪取ハ便條ヲ極メ野崎大隊長ハ自ラ台上ニ立テ輕機ノ眼
打射撃ニヨリ敵ニ甚大ナル損害ヲ與ヘテ之ヲ退シ其ノ爭奪數日ニ及
ベシ此ノ頃第一線ノ手榴彈迫撃砲等彈藥糧秣ノ缺乏甚ク獨立輸送
大隊ニテ大隊(船載隊)ノ改編サレタモノ一ヲ配屬セラレタルモ熾烈
ナル彈雨ト連夕米敷(旅團物資集積所)小隊(海軍)ヨリ運搬補給ス
ルハ特ニ夜間ニ限ラレ極メテ困難ナリキ敵ハ連日無二那覇市北側ニ進
出シ此ノ頃濁混第十五聯隊第二大隊海軍田口大隊潰滅ス

五月二十七日平賀部隊ハ其ノ本部馬寮攻撃ヲ受ケ無線連絡杜絶ス

五月二十八日軍ハ島尻南端ニ轉進シ飽ク迄持久ヲ策スルコトニ決シ旅
團ハ軍司令部ヲ轉進ヲ援護セシメラル 旅團司令部ハ職名ニ轉進ス
旅團ハ海軍丸山大隊ヲ築田川職名ニ殘置シ獨逸第十五聯隊ノ一大隊ヲ
剛場南方台上第二線陣地ニ據ラシメ主力ノ轉進ヲ援護セシムルトシ
風部隊ヲ新城ニ前進セシメ旅團主力ノ貝志頭(安里)八重嶽(高知)等
高地附近ノ展開ヲ援護セシム五月三十一日夜半旅團長ハ長官ニ對リ
出セル平賀部隊長ト會ス

五、島尻轉進後ノ戰鬥經過ノ概要 自六月一日 至六月廿二日

六月一日旅團司令部ハ協定ノ如ク仲座西南方一軒一〇八高地ニ轉進シ
旅團主力モ亦六月三日拂曉迄ニ概ネ新配置ヲ完了ス
旅團ハ軍ノ右第一線トナリ濁混第十五聯隊ヲ右地區トシ貝志頭(安
里)北方台地ニ平賀部隊ヲ左地區トシ八重嶽嶽一五五高地附近ニ旅團
砲兵隊ハ仲座六九、四高地附近ニ配属ス 獨立速射砲第七大隊旅團工
兵隊ハ右地區隊長ノ海軍丸山大隊ハ左地區隊長ノ指揮ニ入ラシム
新ニ指揮下ニ入レル船砲司令部及ヒ線下ニ復歸セル尾崎大隊ハ直轄
トシテ仲座ニ位駐セシム

第一線兵力ハ既ニ大ナル損害ヲ受ケアリ即チ五月二十日頃ハ二旅ケル
其ノ兵力左ノ如シ

兵隊ハ右知區隊長ノ海軍丸山大隊ハ左知區隊長ノ指揮ニ入ラシム
新ニ指揮下ニ入レル船司司令部及ビ線下ニ復歸セル尾崎大隊ハ直轄
トシテ仲座ニ位駐セシム

六月五日敵約二〇〇且、志願ニ進出セルモ之ヲ退ス

六月六日白砲二門彈藥敷發ヲ殘シアリタルモ陣地進入ノ際其ノ一門ヲ
破壊セラレタリ白砲隊ヲ指揮下ニ入ラシメラレ中地區隊トナシ第一
線ニ投入ス

六月十二日頃左地區隊トノ連絡全ク杜絶ス

六月十五日中地區隊トノ連絡杜絶ス

六月十六日仲座ノ旅團砲兵隊本部戰車ノ火焔攻撃ヲ受ク

六月十六日以降第六十二師團殘存兵力ヲ遂次投入セシメタルル
其ノ效ナシ

六月十七日尾崎大隊本部戰車ノ火焔攻撃ヲ受ク一〇八高地北正面一帯
ニ戰車十數輛進出シ旅團司令部亦戰車三輛ニヨリ攻撃ヲ受ク

旅團長ハ殘存兵力ノ弱ヲ率キ變遷ヲ決意セラルルモ軍命ニ基キ廉
文仁八九台地一軍司令部位置ニ轉進スルコトニ決ス

六月十九日拂曉先ヅ廉文仁一軍本部一仲座四又路西側側台上ニ轉ジ六
月二十日早朝廉文仁八九台地兩側海岸ニ轉進ス轉進ノ際先發人員ハ遂
ニ軍命スルニ至ラズ司令部半滅ス

六月二十二日軍司令部及旅團長自決セラレ旅團長ハ線ヲ軍司令部トノ
間ニ遺棄セル艦隊ヲ指揮スベク決意セラレ最後ノ訓示ヲ
ナス共ニ新込隊ヲ編成シ遂次大國頭ニ集結スベク命シタル後司令部ノ
編成ヲ解カス

六、感 狀

獨立混成第四十四旅團司令部
斗敵海兵第六隊
感狀
六月九日軍司令官ヨリ感狀ヲ授

獨立混成第四十四旅團司令部

獨立混成第十五聯隊

旅團砲兵隊

旅團工兵隊

獨立第一大隊

獨立速射砲第七大隊

獨立高射砲第七十八大隊

風部隊

海軍田口大隊

海軍丸山大隊

海軍伊藤大隊

1140

181

附 錄 一 獨立混成第四十四旅團編成ノ概要

旅團司令部昭和十九年五月第三十二軍擔任ニテ沖繩ニ於テ編成第一歩兵隊第二歩兵隊旅團砲兵隊旅團工兵隊ハ第六師團管下ニ於テ昭和十九年六月初旬編成セラル

旅團主力ハ沖繩ニ向テ途次昭和十九年六月二十九日〇七、〇〇輸送船富山丸ハ敵潜水艦ノ魚雷攻撃ニヨリ撃沈セラレ殘存スル者三分ノ一ニ滿タザルモ殘存者ヲ以テ假編宇土部隊ヲ編成ス 八月下旬補充人員ノ到着ト九月沖繩ニ於ケル現地召集ニ依リ第二歩兵隊旅團砲兵隊旅團工兵隊ノ編成完結ス

獨立混成第十五聯隊ハ富山丸ノ遭難ニ依リ七月初旬急遽空輸セラレ本島到着ト同時ニ旅團ノ指揮下ニ入り九月其ノ隷下ニ入ラシメラル

附 錄 二 作戰上旅團ノ不利トナリタル事項

- 1、附錄一ノ如ク旅團編成當初ノ事故ハ必然的ニ素質不良ナル補充將兵ニヨリ補ハレ有形無形上大ナル影響ヲ蒙レリ
- 2、作戰經過ノ概要ニ示セル如ク旅團ハ作戰準備期間ニ四度ニ及ブ移動ヲナシ然モ島尻東半部ニ於テ敵タル存在ハ敵ラシテ南方ヨリノ策動ヲ完封シタリトハ首ハ主戦斗ヲ固有ノ陣地ヲ捨テ、首里戦線ニ轉戦シタル結果一年間ノ作戰準備ハ結果論的ニ云ヘバ全ク零ニ等シ 尙兵團ノ移動頻繁ノ爲物資ノ輸送ト陣地ノ構築ニ追ハレ新編部隊ニ拘ラズ訓練充分ナラザルハ大ナル不利トス
- 3、主戦斗ニ於テ旅團ノ隷屬部隊ハ獨立第十五聯隊(歩兵三ヶ大隊)旅團砲兵隊旅團工兵隊ノ三ヶ部隊ニシテ他ハ全ク素質不明ナル臨時配屬部隊ナリシハ大ナル不利トス
- 4、旅團司令部ノ編成通信ノ編成弱ルハ大ナル不利トス 即チ司令部固有ノ編成ハ旅團長一高級部員一、副官一、部附一、通信班長一、主計一、軍醫一ニシテ通信ハ下士官五兵二〇ニシテ有線ナン右ノ編成ハ司令部ノ機能發揮ニ大ナル不利ヲ生ゼリ

